



しらかば大学
フォークダンスも軽やかに

しらかば大学（学級長・塚本清吉さん）の修了式が二月二十一日に札内福祉センターで行われました。修了式が始まる前に、札内中学校の横山一男先生の指導でフォークダンスをし、軽やかなステップで元気なところを見せました。

しらかば大学は昭和五十一年四月にオープン。おじいちゃん、おばあちゃんが学習や親睦を基に生きがいを見いだそうとする学校です。

ことは一年生四十名、二年生三十六名が楽焼、園芸、手芸の各学部ごとに修了証書を受けました。また、在学中にお亡くなりになった坂口清さんと横山喜作さんには学士号が贈られ、明るく元気に通学された努力をたたえました。

広報 No.326 1979. 3. 1

まくべつ

発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555) 4-2111
編集・町民課広報広聴係 ☎内線111 印刷・ソーゴ印刷

●地域づくりと住民運動

心のふれ合いを期待

第2回 コミュニティ住民大会

ことしで二回目のコミュニティ住民大会が二月四日、町民会館を会場に百九十人が参加して行われました。①青少年健全育成 ②老人を大切にする社会へ ③新生活運動 ④健康づくりとスポーツ活動 について活発な話し合いがされました。住民一人一人がその住んでいる地域で直面している課題を、だれかに任せてしまうのではなく、みんな考えて解決しようと試みています。今月号と来月号の二回に分けて、分科会でみなさんから出された意見をご紹介します。当日の大会に参加できなかったみなさんも、ごいっしょにお考えください。

子供を育てるために 地域と大人は 今、何をすべきか

第1分科会

次代を担う子供たちに、親はみんな心身ともに健やかな成長を期待します。しかし、新聞やテレビをにぎわす子供の自殺や非行はなぜ防げないのでしょうか。



自主性を子供たちの心に

過保護、放任、物の与えすぎなど、子供が成長していくなかで親学校、行政が何をすべきなのか

話し合われました。

①子ども会の自主性をそこなわず、活動の充実を促すため育成者と地域はどうしたらいいのだろうか

〔発言〕——子供が成長していくためにはおんぶにだっこではだめだ。子供に主体的な冒険をさせるべきだ。親のつごうで勝手に子ども会の事業を変えてみたり、中止するのは子供の気持ちを理解していない。子ども会の行事が終わった後、子供たちとの話し合いを欠かさないことが前進につながる。育成者の公区内での立場、位置づけが不明確。現代の子供たちは常に危険の中で生活しているから、安全対策に力を注ぐべきだ。地域内で声をかけあうことが少なく、「おはよう」と言える親が少ない。ふだん親と子のふれあいが少ないため、親中心あるいは子供だけの活動になりやすい。子供会にたずさわる指導者が一年ごとに代わっている。大人の側として、だれがリーダーになって進めるのかをはっきりしたほうがよい。子供会だけ

でなく公区全体、そして近隣公区がいっしょに行事を行っている。子ども会の総会をやり、子供たちの希望をとり入れながら活動に取り組んでいる。自然の中で子供が遊びを学べるような機会が必要。

②子ども会へ中学生の参加をどのように進めていったらいいのだろうか。

〔発言〕——地域子ども会のしくみでは、会員が七歳から十五歳までと幅広く、年齢差のためか中学生の参加が非常に少ない。中学生が参加しやすいような催しを企画して工夫はしているが、中学生が子ども会のリーダーとして定着するにはまだ二、三年かかりそう。小学生のころは活発にやっていた子が中学生になると子ども会から遠ざかっていく。親が「中学生になったら遊んでばかりいないで勉強しろ」と言っている、子ども会の自主性をそこねている。親として、地域活動へ自分の子が参加できるように協力すべきだ。一人っ子や兄弟二人といった家庭が多く、連帯性に欠けた子供が多い。行事に自ら進んで入って楽しく遊べる子供が少ないが、これは習慣・訓練が足りないためではないか。家庭（親）が自己中心的で、中学生になった「進学だ、習いごとだ」で、子ども会に参加しづらい状況をつくっている。

③家庭教育、学校教育との連携をどう進めていったらいいのだろうか。

舌をかんていまいという横文字です。コミュニティの意味を簡単に表現すると——地域に共通した利害を基に、そこに住む人々がみんなで問題解決をしていこうとする集団活動のことです。適当な日本語がないために、コミュニティという言葉がそのまま使われています。

地域集団という言い方がありますが、これと少し意味が違います。従来の伝統的な地域社会では、リーダーシップをとる人が問題解決を請負っていたといえます。リーダー以外の人たちは決まったことに従っていただけでした。

コミュニティって何？

コミュニティというのは、地域に住む人みんなの問題の原因から探り解決方法を話し合っていく形式をとります。ですから、地域の問題の解決を指導者や世話役の人に依存するのではなく、住民みんなの知恵を出し合って住みよい地域をつくらうとする運動を指します。だれかに全てをまかせてしまうのではなく、一人一人が町づくりの主人公として参加していきましよう。



しらかば大学の修了式

青少年健全育成も老人問題も、それぞれ多様な考え方があります。コミュニティ住民大会では、みなさんが意見を出し合う中から、望ましい方向へ歩き出そうとしています。

う。
《発言》——「親は困る」とか「先生は困る」とよく言うが、結局は親と学校が責任をなすりあっているのではないか。人間は三歳から六歳までの間に性格がつくられるというから、この時期の過保護は問題がある。集団としてのしつけ（学校）と、家庭でのしつけを連携をとりながら進めよう。学校はなにをする所かを理解したうえで、親と先生が子供の指導の方向を探るべきだ。ある調査によると、地域子ども会が熱心に健全育成に努めている所では、非行の生じる度合いが少ないとの結果が出ている。地域単位で郷土づくり、町づくりをもっと子供たちに意識させるような方法を考えてはどうか。

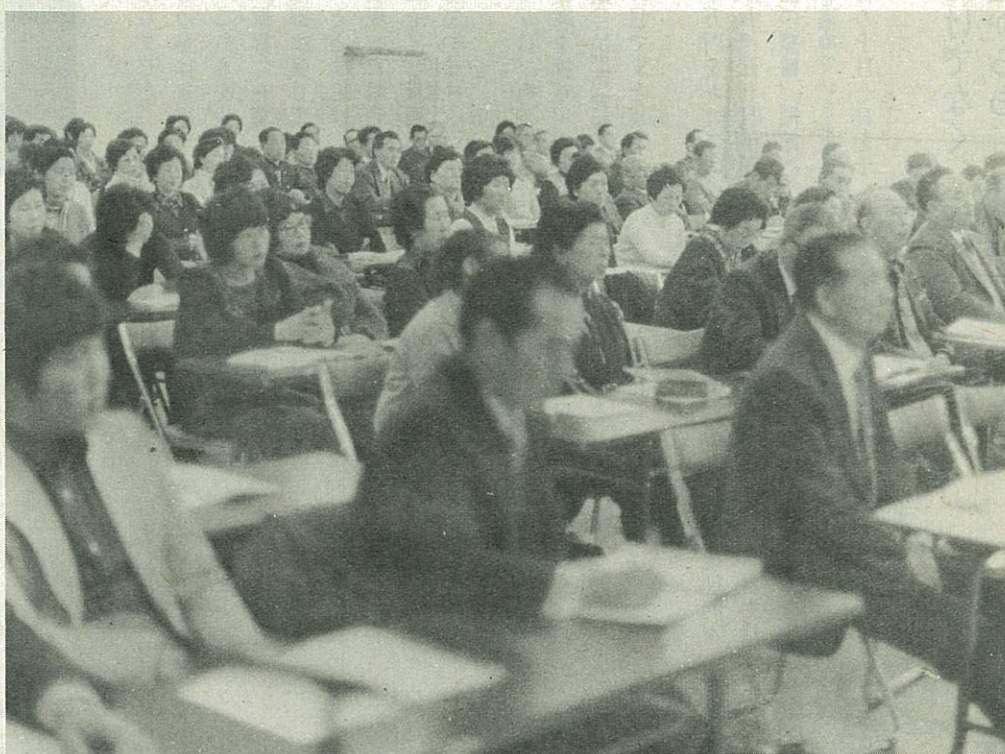
どちらの問題も長い時間をかけて解決していくしかないようです。今月号でご紹介した多くの意見を参考に、みなさんはどうお考えになりますか。

老人を大切にするには 地域と大人は 何をすべきか

第2分科会

町内に老人クラブは十六か所、会員は千三百人になりました。第二分科会では、会員のみなさんからも老人クラブをめぐる意見が数多く出されていました。

《発言》——飲み食いをして世間話をするだけが老人クラブのすべではない。老人を孤独感から解放すると同時に、第二の人生を考える場にした。七十歳から八十歳の年齢層に六十歳くらいの新会員が入ってきてても、話が合わないから、趣味を通して会員が集まるクラブにすれば、若いうちからでも入りやすいのではないか。定年で第一線を退いたばかりの人にも積極的に入会してほしい。農家地区の老人クラブへの加入率は高いが、市街地区のほうは低い。精神的に老



各分科会の発表に熱心に聞き入る参加者のみなさん

化しないよう、しらかば大学に通っている。学習の場に積極的に参加して、時代の変化に対応できる老人になりたい。楽しい家庭をつくるのがとりもなおさず老人の生きがいである。地域で老人を大切にすることについて、わかれわかれ（老人）の本当のしあわせは家庭にある。家へ帰ったらいいじゃん、ばあちゃんに「こんなことがあったわ」

って話すとても喜ぶ。物を買ってあげるのもいいことだろうが、ふだんの会話を大事にすることが老人を大切にすることでもある。核家族化で子供たちは年寄りを知らないで育っているが、人間形成の上で問題はないのだろうか。年寄り扱いされ、あまりかばわれずぎるとかえって孤独感に陥る。老人クラブの発展も、しあわせな家庭があつての話だと思う。

五十一年六月に幕別地域、札内地域の子ども会が結成されました。それ以前は各学校ごとに校外子ども会として活動していました。

地域子ども会の現況

●幕別地域子ども会
育成連絡協議会 子ども会・二十八団体／会員・小学生六百七十五人と中学生二百七十六人／育成会・二十八団体／育成者数・百三十人（父母）
●札内地域子ども会育成連絡協議会 子ども会・二十九団体／会員・小学生八百九十九人と中学生三百四十三人／育成会・二十九団体／育成者数・百三十四人（父母）
それぞれの育成会はもちろん連絡協議会としても、親と子がいっしょにいろいろな活動をしています。例をあげると、川狩りやキャンプ、工作大会、小鳥の巣箱づくり、道路清掃、スケートやスキーの大会、自転車教室育成者の研修会、子供のリーダー研修など。

矢印の建物が、ふるさと館に生まれ変わる旧ボウリング場
(南側上空から撮す)。

上の歴史を残そう

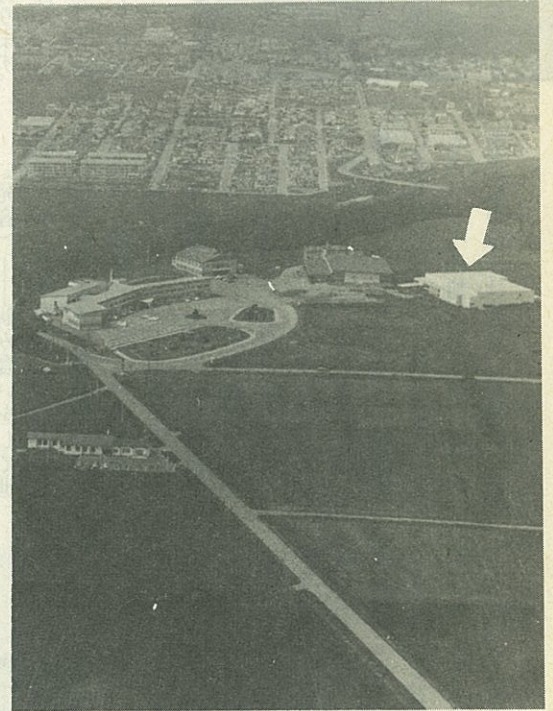
1日オープンを予定

幕別は生まれてから八十三年たちました。町内には開拓のころから伝わるものをはじめ貴重な品々がたくさんあります。これらを永久に残すための「ふるさと館」(仮称)を幕別温泉隣の旧ボウリング場を内部改築して建設します。資料の保存・展示にとどまらずわが町の自然科学や未来の姿も表現した総合博物館的なもので、オープンはことし、開町記念日にあたる十月一日をめざしています。

このほど出来たプランは、町内の社会教育委員会を中心に素案を練り、それを基に道立開拓記念館(江別市野幌)の亀谷隆さんに専門家の目でまともなあげてもらったものです。

内部の改築は約五千万円をかけて、今月から工事を始めます。五十四年度(四月から)は展示品の整備、開館へ向けて催し物の企画を進めていきます。オープンは開町記念日の十月一日を予定しています。

保存・展示だけでなく
自然科学の面からも



ふるさと館建設は、一般のみなさんからの要望が発端でした。それを基に四十七年には社会教育委員の連名で陳情書が出されたこともあります。建設場所や運営方法などの構想を慎重に検討した結果、今日まで実現が遅くなっていたわけです。

一方、ふるさと館に生まれ変わるボウリング場は、東京に本社を持つ民間会社から土地を借り受けて四十七年にオープンしたものです。当時の利用率はかなり高かったのですが、ボウリング熱がさめるにつれて客足が遠のき五十年五月から休館していました。

建設決定までの足あと

この周辺は国民宿舎・幕別温泉ホテルを中心とした福祉村構想区域でありさらに五十二年五月には国民保養温泉地にも指定され、一帯の環境づくりが期待されています。こうしたなかでボウリング場跡の建物をそのまま放置することはできず、町としても再利用の方策を考えてきました。以前から要望の多かったふるさと館建設、そしてボウリング場跡の建物の再利用、この両方を同時に進めようというのが今回のプランです。なお、ボウリング場の買収金額は約四千九百万円です。

ふるさと館の性格をひと言でまとめると――「自然とそこで生きる人間とのかかわり合いを明確にする」――これが最大テーマです。同館の事業は大きく分けると、①展示 ②収集・保存 ③教育・普及 ④調査研究の四つです。

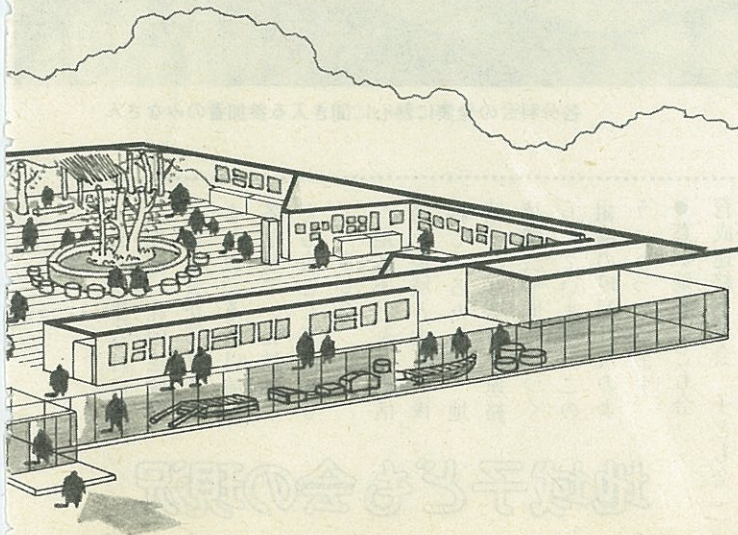
七つの空間に広がる人々の営み、町の歴史

展示は、幕別町・十勝川・歴史・自然・人間、それぞれがどうかかわってきたかを基本にしながら展示場を七つに分けました(左上の図を併せてご覧ください)。幕別の文化的・地理的な特色のなかから、みなさんの日常生活とのつながりを知っていただこうとしたものです。

このほど出来あがったプランをもとに、広報紙上でみなさんをふるさと館へご招待します。

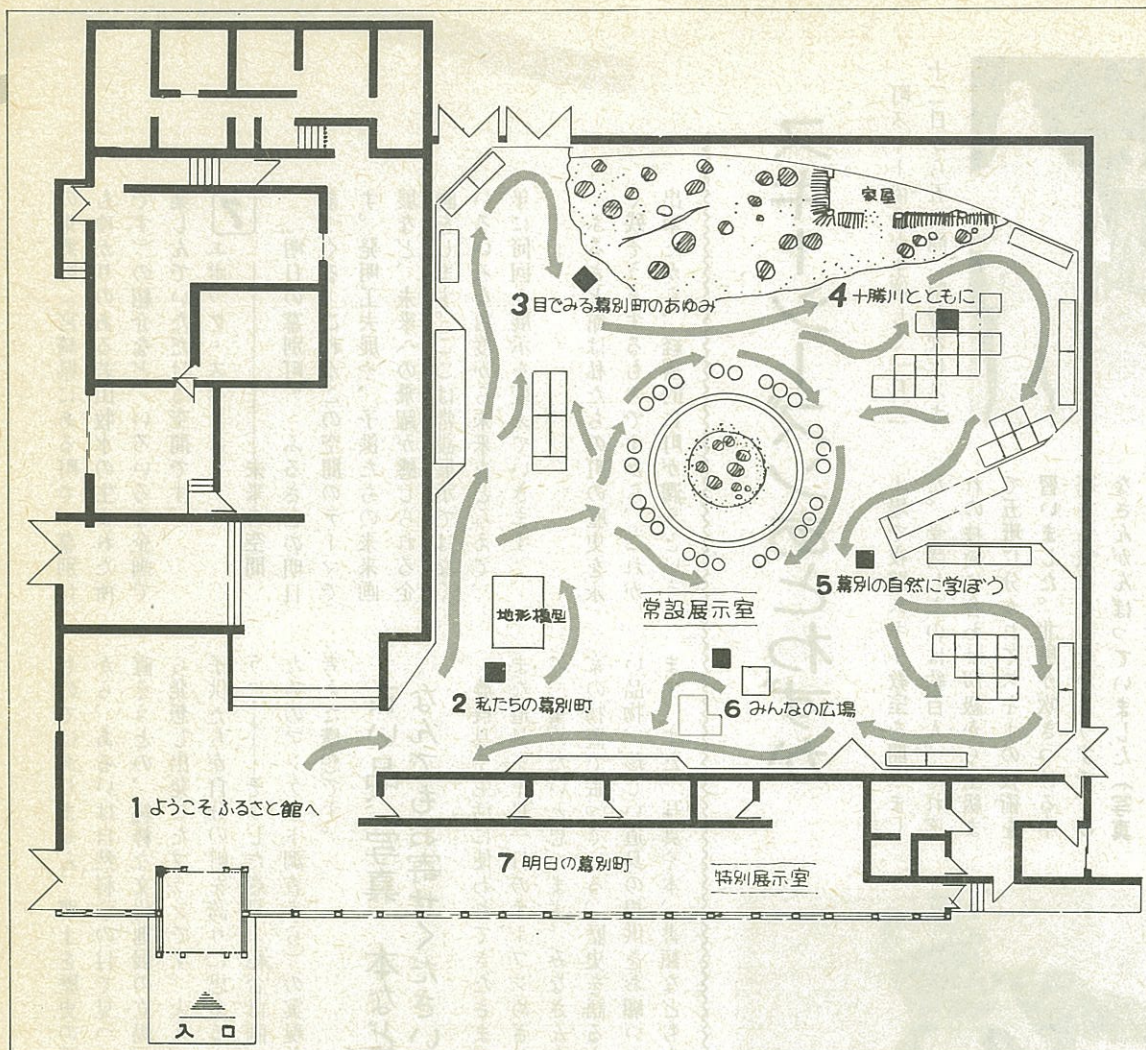
1 アプローチ・スペース

期待の空間



ふるさと館

寄せられた農機具や生活に使われたさまざまな道具を単に保存・展示するだけでなく、幕別の自然とどうかかわって町が発展してきたかを表現した総合博物館的なものにします。自然科学の面からも町の歴史をとらえ、大人はもちろん、子供たちが興味を持って学べる教育的配慮も忘れません。



とまずここで、展示の見どころなどをご説明します。そして展示場へ。ここから先はみなさんそれぞれの自由な目で幕別の自然、あゆみ、未来を見てください。

2 インフォメーション・スペース
案内の空間

「私たちの幕別町」ここでは現在の町の姿をいろいろな角度からご覧いただけます。自然、四季と人々など町全体の姿を見て、わが町のよさを再発見してみてください。

3 オリエンテーション・スペース
予習の空間

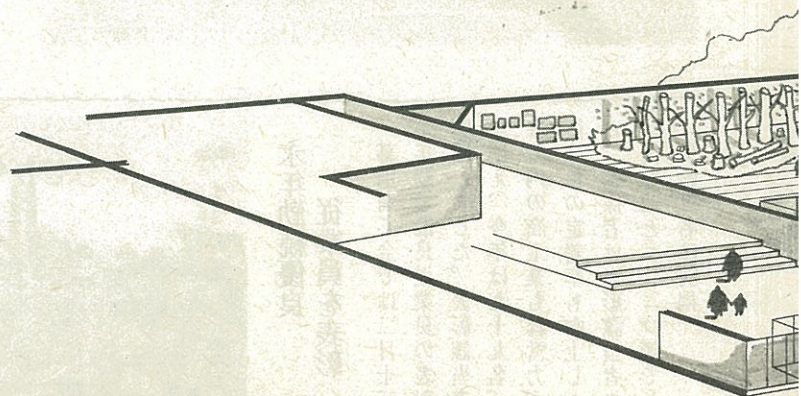
「目で見る幕別町のあゆみ」町の歩んできた歴史をフィルムなどを使って視覚的に表現します。旧石器時代から始まり今日の幕別までを、大昔・開拓・発展の三つに分けて、移り変わってきた町の姿をみなさん自身の目で確かめられます。

4 ドラマチック・スペース
物語の空間

「十勝川とともに」先住民族の生活、寒さと闘いながらの開拓、そして自然を恵まれたものとして町の発展に結びつけてきた人々の知恵などを、十勝川との深いつながりと共にドラマチックに構成した空間です。私たちの住むこの地が、大昔は海だった——こうしたことも壮大なパノラマで再現していきます。

5 ライブラリー・スペース
学習の空間

「幕別の自然に学ぼう」十勝川を散歩してみましょう（といっても館内の話です）。みなさんが十勝川のほとりを歩いているのと同じふんい気を感じ



6 ファミリー・スペース
広場の空間

「みんなの広場」みなさんが広く利用できる場所です。展示と同時に語らいの場にします。ここでは、姉妹町村（次のページにつづく）

★お子さんたちにはお父さん、お母さんが図を見ながら説明してあげてください。

の東郷町（宮崎県にある町で、幕別に
もゆかりのある若山牧水の生まれた所
です）の紹介など、いろいろな企画で
楽しんでいただける空間です。

7 エポック・スペース

未来の空間

「明日の幕別町」 ふるさとを明日
をつくる、これがこの空間のテーマで
す。発明工夫展や、子供たちの未来画
展など、未来への飛躍が感じられる企
画をします。ここは常設展示ではなく
いろいろな角度から未来をとらえて、
年に何回か展示を変えていきます。

ふるさと館は私たちの町の歴史を永
く残そうとするものですから、これが
出来たから、経済的に町が潤うとい

ものではありません。郷土を歴史の面
から、あるいは自然科学の日で見つめ
直そうとの、純粋な文化進展の立場か
ら発想し出されたプランです。大人が
子供たちが自分の町を誇りに思えるよ
うに——そうした意見（総合計画の
ためのアンケート調査から）の実現も
考えた構想です。

古い品、写真、本など なんでもお寄せください

農機具や生活に使われてきたさまざ
まな道具を十月一日のオープンめざし
て、集めたいと思います。みなさんの
家の物置で眠っている、歴史を語る古
い品物、珍しい道具の提供をお願いし
ます。また、写真や本、書類なども大

歓迎です（複写をさせていただき
でもけっこうです）。

寄贈はできないが貸すのは構わない
という方へは預り証をお渡し、お借り
した品はふるさと館で大切に管理しま
す。特に書籍などのように湿気を嫌う
ものは、ふるさと館に預けて管理を依
頼するほうが長持ちします。

これらの提供や寄託は四月一日から
教育委員会・社会教育課

☎（01555）（42006

でお受けします。くわしいことのお問
い合わせもこちらへどうぞ。また「あ
そこの家にはこんな品物がある」とい
う情報もお知らせください。

みなさんのふるさと館です。共に内
容の豊かな文化施設にしましょう。

●広報では10月オープンまでのよう
すを続けてお知らせしていきます。

スキーシーズンあとわずか

町スキー協会が主催して一月二
十二日から五日間、明野が丘スキ



ー場で夜間スキー教室を開きまし
た。受講したのは約百人。それぞ
れの技術に合わせて初級から上級ま
で五班に分かれてスキーの技術を
習いました。北風が吹きつける中
寒さも気にならないようです、み
なさんががんばっていました（写真
上）。明野が丘スキー場は夜間照
明がありますので、午後九時まで
滑ることができます。

一方、二月二十五日には札幌シ
ヤンツェで第三回幕別町ジュニア
ノルディック大会が行われ、豪快
なジャンプが続きました（写真下）。



子ども会、冬の レクリエーション宝

宝町子ども会の冬のレクリエ
ーション大会が二月十二日に明
野が丘スキー場で開催されました。
一行四十名は徒歩で現地へ。ボ
ブスレー、ミニスキー、ミカン
拾いに良い子は歓声をあげ、お
昼には育成会（岡田実会長）心
づくしの豚汁で、楽しい一日を
すごしました。



永年勤続優良 従業員を表彰

商工会

幕別商工会では二月十二日に
永年勤続優良従業員の表彰式を
開催しました。表彰該当者は年
年増え、今年は九十九名。これ
は町内の商業も経営力がつき
従業員の定着率も向上したため
と、関係者は表彰該当者の増加
は大歓迎とニコニコ顔でした
（受彰者名は別掲）

資源回収事例

捨ててしまえばただのゴミ。廃品と思うものでも立派な資源です。回収の益金を公区の親睦に役立てているところがたくさんあります。実施していない公区のみなさんも資源回収運動に参加しましょう。

益金を公区の親睦に還元

札内青葉町公区

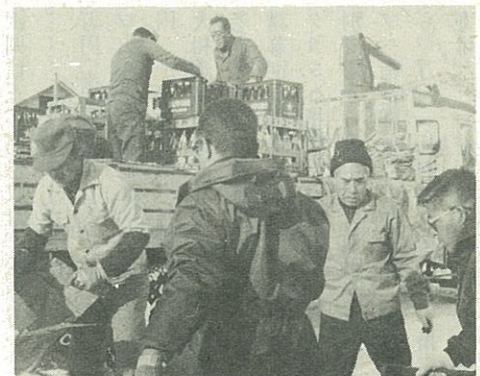
札内青葉町公区（伊藤一男公区長）では、不用品を回収し、これ得たお金をレクリエーションなどで公区民に還元し、あわせて公区民の親睦を目的に昭和四十七年にはじめました。

回収する資源は、他の団体とかわりませんが、年四回の回収を目標とし、回収日時が決まりますと町内会報で周知し、回収日の当日はメガホンを使用して公区内に知らせています。

最初にはじめた四十七年は千六

十三円の収入でしたが、その後、年々金額の面でも増加、五十三年末までの六年間で十万六千八百九十円という大きな金額に達しています。

資源回収で得たお金は、その都度、公区の会計に繰り入れて使用しています。また、町内会が発足してから十周年を迎える時期にもなってきたため、今後は、これら祝いごとの行事などに使用するため、積立てをおこなうよう検討しているそうです。



婦人部が主体、活動費に

緑町第一公区

緑町第一公区（植地長男公区長）では、限りある資源を大切にするとともに婦人部活動費の一部にしようとして、婦人部が主体となって昭和五十二年十一月からはじめました。回収は四か月に一回の割合でおこなっています。

実施することになり、第二公区長が業者と打合せて、回収日時を決める方法に変わりました。

緑町第一公区婦人部（米木陽子部長）では、同じ公区に住んでいる人も知らない人もいるため、まず公区内の親睦を図ろうと、資源回収で得たお金を利用して新年会を開催したり、公区内の敬老会に積極的に参加し、公区内の融和に役立てています。

回収は婦人部長が各班ごとに回収日時、場所を通知し、当日、指定された場所に各自が持参して業者に引渡していましたが、昨年から緑町一、二、三公区が同じ日に

なお、「将来は業者を一定にし



全町的に同一の日に回収する方向にもっていったら……」と提言しています。

注 お金の図柄と商業宣伝

最近、通貨（お金）の図柄を使って商業用宣伝しているのを見ることがありますが、これは「通貨及証券模造取締法」などに違反し処罰されますので、ご注意ください。

また、これら法律に直接該当しない場合でも、たとえば「○○商店」などの文字を入れたり、聖徳太子像の部分等を他の人像に代えたものであっても、通貨の尊厳維持の点から好ましくなく、通貨の図柄を商業宣伝に絶対使わないでほしいと帯広財務部では注意しています。

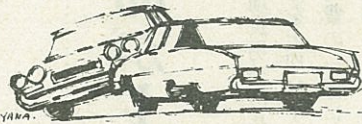
公害のない 洗剤の勉強会 緑町

緑町第三公区婦人部（高橋ユキ部長）では公区内の親睦はまず婦人たちからと、二月十六日の午後、天理教十勝分教会に集まり、公害のない洗剤の勉強会と懇親会を開催しました。これに参加した婦人方は五十名。今後は育児などの勉強会も開催することになっています。



ことしから1人2口までOK

町村民交通傷害保険



更新は今月

住民の総力で万一の交通事故に備えよう—と町村民交通障害保険の取り扱いがはじまってから早くも八年たちました。三月は保険の更新時期ですが、今年は、その内容が変り、一人二口まで加入出来ることになりました。

町村民交通障害保険は幕別に住んでいる方、または町外から町内通勤、通学している方なら、どんなでも加入出来ます。昨年は三千二百二十七人が加入しました。ところが昨年一年間で四十件の事故が発生し、三人が死亡、七十三人がケガをしたのに、どうい

か、保険料支払い請求はほとんどなく、一月末現在で一件（前年は七件）となっています。

町村民交通障害保険に加入している方の交通事故は少なく、加入していない方に事故が多いことがこの保険金の支払い状況から言えるようです。

保険料は、今年から一人で二口まで加入でき、保険期間は四月一日から一年間。三月中に予約申し込みの方は一年分一口四百八十円、二口の場合は九百六十円、中途加入の時は月割りとなります。

保険金は全国どこで交通事故にあっても支払われます。また、自転車で転倒したという自己過失の場合も支払いの対象となり、毎日の生活になくてはならない保険といえましょう。ただし、航空機、船舶などによる事故は支払いの対象とはなりません。

万一、事故にあった時に支払われる保険金は次の通りで、二口加入した方には倍の額が支払われます。

- (1) 亡くなられたとき（事故にあった日から百八十日以内に、その事故が原因で）……………八十万円
- (2) けがをして失明、片手または片足を失ったとき（事故にあった日から百八十日以内に、その事故が原因で）……………五十万円
- (3) けがをして医師の治療を受けた期間が

六か月以上……………十二万円
五か月以上六か月未満……………七万円
四か月以上五か月未満……………五万円
二か月以上三か月未満……………三万円
一か月以上二か月未満……………二万円
一週間以上一か月未満……………一万円
一週間未満……………五千円

この治療を受けた期間とは「けがをした日から平常の業務に従事することが出来る程度に治癒した日まで」となっています。保険金は重複して支払われますが、保険期間を通じて最高八十万円、二口の場合は百六十万円が限度です。

なお、加入にあたって不明の点や、事故にあったときは、ただちに役場町民課交通防災係にお申し出ください。

☎ 2111・内線107

篤志寄付者の お名前

町へ…
▽萬恵正さん（帯広市、元幕別町議会議員）から母が生前お世話になりました、福祉の向上に使用してほしいと二百万円
社会福祉協議会へ…
▽高橋辰夫さん（南町）から父が生前お世話になりましたと二万円
▽匿名の方から恵まれない子供たちにと千円
▽高橋辰夫さんから二万円（幕別老人クラブへ指定寄付）
▽高橋辰夫さんから二

表彰されたみなさん

永年勤続優良従業員

町内の商工業に勤務している方で、永年勤続優良従業員として表彰された方々は次の通りです。

▽勤続二十年—鎌田芳美、鎌田チエ子

▽勤続十五年—大石共也、松本与三平、大友鉄三郎、富西清紀、小林サナ

▽勤続十年—近藤孝司、池田茂草野洋一、晴山利明、下坂与吉、高橋寅

▽勤続五年—鱈チャ子、中村サイ子、高尾キヌエ、高野チドリ、福島照子、乾アケコ、駒野一豊、松原明子、松田豊子、西村千代子

三好和代、辻美智子、岩隈富美、嵯峨山勝美、岡田定正、西山久雄、岡田一義、藤岡秀茂、江川金六、沢岡信王、高畠政雄、松原寿一、

万円（南町老人クラブへ指定寄付）
▽大和講御詠歌幕別支部から三万円（十勝愛育園へ指定寄付）
▽大和講幕別支部から二万円（幕別老人クラブへ指定寄付）
▽大和講幕別支部から一万円（宝町老人クラブへ指定寄付）
▽大和講幕別支部から五千円（旭町老人クラブへ指定寄付）
▽札幌内大師講から一万円（札幌内大師講から一

万円（明野新川長寿会へ指定寄付）
▽植田豊さん（明野）から五千円（明野新川長寿会へ指定

三井佛、金岡みつえ、立花ふみ子
小野寺菊江、館計文、斎藤悦子、高橋甥子、扇光善、牧野栄二、河合政明、安田成子、東野賢次、赤間勲、本田信雄

▽勤続三年—二瓶幸雄、真鍋二三子、尾崎えみ子、石田正衛、高村定夫、佐藤吉郎、渋谷馨、戸梶勝春、増谷玲子、山際年子、佐伯直子、坂本重幸、恩田清、鈴木照雄、吉田公明、吉田吉治、高木律子、三井ツヤ子、加賀田ツヤ子、深井千代子、杉野ミツエ、平井善見、本保幸男、大沼真喜子、稲上慶子、井瓶政子、折笠節枝、松田悦子、館菊江、小野寺領子、秋葉君子、小林照子、太田文子、伏見百合子、佐藤幸子、五十嵐滋、星久保徳市、成田誠、下田幸男、桜井操、大橋博、梅田清、真鍋照子、新屋敷ヤエ、新屋敷ミサヲ、松井トミエ、村田泰子、鈴木好子、佐藤光春

寄付）
▽東原武夫さん（明野）から三千円（明野新川長寿会へ指定寄付）
▽岡田実さん（宝町）から一万円（宝町老人会へ指定寄付）
▽水野清吉さん（宝町）から一万円（宝町老人会へ指定寄付）
▽山本甚蔵さん（宝町）から五千円（宝町老人会へ指定寄付）
教育委員会へ…
▽日成ブロック工業株式会社からスポーツ振興基金として二十万円（体育連盟へ指定寄付）